

特定非営利活動法人 野生動物救護の会 会報



Vol.3

# RUNNER



- ◆今日のRUNNER 2, 3P
- ◆ハシボソミズナギドリ 4, 5P
- ◆らんちゃん便り 6P
- ◆山下の突撃レポート 7P
- ◆ランナー通りの住人たち 8, 9P
- ◆野生動物医学会 10, 11P
- ◆HELLO!! VOLUNTEER☆ 12, 13P
- ◆インフォメーション 14P

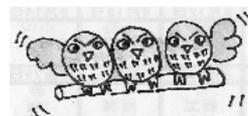
## RUNNER とは??

この会報のタイトル“RUNNER”には3つの願いが込められています。

- ☆自然環境保全センターの長年のアイドルであるらんちゃんがいつまでも元気でいられるように
- ☆救護の会がRUNNERのようにどんな困難も乗り越えて進んでいけるように
- ☆動物たちが元気に大空に飛び立ち、走り続けていけるように



# 今日のRUNNER



第三走者：アオバズク

ここでは保全センターに運び込まれた傷病鳥獣について保護記録やエピソードを交えてご紹介します。

## 青葉と共に

アオバズクー青葉の季節に渡ってくるから、そう名付けられたと言われています。一度は青葉の元から、保護されて保全センターへ来た彼らですが、リハビリを続け、ついにまた青葉の中へと飛び立っていきました。今回はそんな3羽のアオバズクに注目しました。



7月25日 仲良し三兄弟

## アオバズクとクロマツ

初めの2羽が保護されたのは7月16日。小田原市内の公園の、大木の枝を切ったところ発見されました。産毛のような羽が生えてフワフワした状態で、その枝の洞の中にいました。続いて23日には兄弟と思われるもう1羽が保護され、計3羽が保全センターにやってきました。



7月18日 初めの2羽

アオバズクたちがいた大木は、樹齢約400年(推定)の巨大なクロマツです。その大木の枝の洞でアオバズクが繁殖していると知らずに、剪定してしまったのです。洞の中には2羽しかいなかったようですが、後日散歩していた方がもう1羽保護し、その子は公園の職員さんがしばらく世話しました。



クロマツ 黒い鉄塔で支えられている

## 保護個体データ

受付番号：080447(赤)、080448(白)

種類：アオバズク(巣内ヒナ)

保護年月日：2008年7月16日

保護場所：小田原市内 公園

状態：元気なし、外傷は特になし

(体重：88.6g、92.0g)

転帰：2008年9月16日 野生復帰

受付番号：080486(青)

種類：アオバズク(巣内ヒナ)

保護年月日：2008年7月23日

保護場所：小田原市内 公園

状態：元気あり、外傷は特になし

(体重：154.0g)

転帰：2008年9月16日 野生復帰

○ 図鑑 ○ NO.3

・アオバズク *Ninox Scutulata*

フクロウ科

神奈川県レッドデータブックで絶滅危惧Ⅱ類(絶滅の危険が増大している種)に指定されている。これは営巣する大木が減っているなどの環境悪化に加え、撮影等の目的で人間が巣へ接近して起こるなどの人的攪乱の為。

主に夏鳥として全国的に渡来する。伊豆諸島など冬も見られる地域があり、南西諸島の亜種は留鳥。低地から山地の林にいるが、樹洞に営巣するので、社寺境内などの大木が多いところに住む。

夕方から活動し、大型の昆虫を主に食べる。夜間は光に集まる虫を取るため、街燈の周囲を飛び回ることもある。ほぼ毎年同じ巣を利用して繁殖する。しかし営巣する大木は古木が多く、強風に耐えられなかったり、危険なので切り倒される場合もある。今回もそれに近く、早急に巣箱を巣があった場所に設置してヒナを戻すべきだったかもしれない。

\*参考:・高野伸二『フィールドガイド 日本の野鳥』増補改訂版(財団法人日本野鳥の会、2007)  
・神奈川県レッドデータブック2006年度版  
・大沢八州男、叶内拓哉、山本純郎『鳥 フクロウ』(文一総合出版、2001)

### 短期里子

保全センターにやってきた3羽は、ボランティアさんのお宅にしばらく預けられ育てられました。初めの2羽は7月18日にやってきました。当時はやせていた2羽でしたが、餌をもらい徐々に体重も増えていきました。もう1羽も6日後にやってきて、3羽仲良く育てられました。しかし3羽とも初めは自分で餌を食べなかったため、逃げ回る彼らに強制給餌を行わざるを得ませんでした。8月17日には強制給餌をやめ、置き餌に切り替えましたが全然食べず、体重の減少が著しいため、22日に生きたマウスの強制給餌を行いました。すると翌日には生きたマウスの置き餌も食べるようになり、放野の準備のために保全センターへ27日、戻されました。しかし自分で食べるようになると、突然人間に慣れ慣れで寄ってくる様になりました。



8月27日 成鳥と見間違えるほど

### 皆に見守られて

保全センターに戻ってからはフライングケージで元気に飛び回り、時にはボランティアさんが取ってきた虫をフライングキャッチすることもありました。「リーン、リーン」と鈴虫のような鳴き声をし、左右に首を傾げる仕草はかわいらしいのですが、いつまでも人間に甘えているようでした。しかし夏鳥であるアオバズクは、もう渡っていかねばなりません。人間に慣れている点が心配でしたが9月16日、無事保護場所で放野を行いました。放野直後は近くに2羽が残ってしまいましたが、しばらくしてもう1羽も戻ってきてやがて3羽仲良く飛んでいきました。

#### 成長記録(2008年)

7/16 赤 88.9g、白 92.0g 保護される  
7/18 赤 120.4g、白 126.7g ボランティアさんのお宅へ  
7/23 青 154.0g 保護される  
7/24 青 154.0g ボランティアさんのお宅へ  
8/01 赤 177.6g、白 186.0g、青 183.3g  
8/10 赤 217.7g、白 228.9g、青 217.5g  
8/15 赤 219.6g、白 227.8g、青 218.1g  
8/17 強制給餌をやめ、置き餌に変える  
8/20 赤 193.9g、白 198.8g、青 195.3g  
8/22 強制給餌をする  
8/27 保全センターへ戻る  
9/16 放野

湘南海岸

# ハシボソミズナギドリ大量漂着物語

みなさん、今年の5月、センターで起こった事件を覚えているでしょうか…？



5月19日、沖縄県をはじめ西日本は大雨に見舞われ、20日には南からの台風が温帯低気圧にと変わり、関東を豪雨にもたらしました。特に太平洋側の天気は風も吹き、荒れに荒れて神奈川県海老名市で 51.5mm/h というすごい雨…。

そして20日、センターに1本の電話が。

「もしもし、海岸に黒い鳥が横たわっているんですけど、そちらへ持って行って大丈夫でしょうか？」

職員さん「平気ですよー。気をつけてお越しくださいねー。」



そんなこんなで来た鳥はハシボソミズナギドリという、まさしくちっちゃな黒い鳥。

ハシボソミズナギドリは見た目はアホウドリやカモメをちっちゃくしたような黒い海洋性の鳥で、初秋頃にオーストラリア南部の島々で繁殖をします。繁殖がすんだ親は子供より一足先に太平洋を北上し、北太平洋の海上へと渡ってしまう鳥です。

そんなミズナギドリたちがセンターに運ばれ、専属の獣医さんは小鳥部屋（B室）に仮

の小プールでも作って周りに人工芝でも敷いてこいつらが快適に過ごせるようにしようと考えました。

しかし、そんな獣医さんの予想をはるかに超える出来事がこの後待ち構えていました…。



「カラスの赤ちゃんみたいなのが死にそうで…」「鳥インフルエンザじゃないよね？」「うちの庭に黒い鳥が死んでて怖いんですけど…」「どうすればいいの?!」

すごい数の電話が神奈川県中から殺到し、野生生物課だけでは対処しきれず、あわてて隣の課の人たちも対処してくれました。そして神奈川県内の市の職員さんや一般の方たちがダンボールを抱え列をなしてどんどん受付に並んできました。

気づいた時には1日目で約 50 羽が運び込まれ、小鳥部屋にいた小鳥たちは通称「百万円ハウス」へ運び込まれ、小鳥部屋はミズナギドリたちで埋まってしまいました。

その晩、獣医さんからボランティアさんへ「緊急！助けてください」メール一斉送信がされました。



どうやら 19、20 日の荒れた天気で飛ばされてきたようです。先に親たちが北へ渡ってしまっただけの子供たちは、自分たちで頑張っただけのいる北太平洋を目指します。しかしまだ親ほど体力のない子供たち。運悪く当たってしまった悪天候のせいで渡りのルートであった湘南海岸付近に大量に打ち上げられることになりました。このような出来事は 10 年に 1 度は起こるようですが、最近はその間隔が狭まってきているそうです。



今回の騒動で湘南海岸に打ち上げられた数はなんと 2000 羽強。

最終的にセンターで受付された数は 81 羽で、そのうち 1 羽は元気だったので元の場所へ戻してもらったことになりました。

大量にいるミズナギドリたち 1 羽 1 羽の管理はとても大変。てんやわんやの 3 日間、大勢のボランティアさんが朝早くからセンターに足を運んでくれました。まずは弱った子供たちのためにアジなどの魚をすりつぶし、餌を作ります。そのあとは、食道にチューブを挿入して強制給餌です。ハシボソミズナギドリのくちばしに挟まれるとかなり痛いのですが、みなさん頑張って口を開けてご飯を食べさせてくれました。その他固体識別、タオル換え、場所の移動など、様々な仕事を 1 日中 1 つ 1 つこなしてくれました。

しかし、ミズナギドリたちはみんなセンターに来るまでに海岸や運ばれる車内で長い時間を過ごしてかなり弱っていたようで、頭を下げてぐったりしていて、口の中は真っ白でした。これは貧血を意味していて、ずっと御飯を食べていなかったらしく竜骨突起（胸部の骨のでっぱり。ここで太っているか痩せてい

るか判定）は飛び出るほど痩せていました。

結局保護されたミズナギドリのうち 69 羽と、同じ理由で保護されたレアなコアホウドリ 2 羽も命を落としました。

11 羽を 23 日に放鳥することとなりました。とは言ってもまだ完全復活とはいきません。しかし、これはどの野生動物にも共通することですが、特に海洋性の水鳥は一刻も早い野生復帰がとても重要となります。

また、ミズナギドリを保護して下さった方の寄付により生餌（ドジョウ）を買ってくることもでき、みんなは水槽内のツルツル滑るドジョウをおいしそうに食べていました。

海岸へ向かう車の中で元気な子は 1 羽ずつ入ったダンボールの穴から顔を覗かせるほど。

海岸に着いていざ放鳥となりダンボールを開け、まず 1 羽放してみます。そうすると波にも負けずにスイスイ泳ぎながら沿岸へ。あっという間に見えなくなってしまいました。

でも 11 羽全員がそういうわけにはいかず、2 羽は水はじきが悪く、波に負けそうでした。

放鳥の直後に海の藻屑となってしまう子はいませんでした。これからちゃんと餌を獲れるか少し心配です。



不安が残る結果とはなったものの、やっぱり 1 日でも長く生き延びて、来年も大空を渡ってほしいと願います。



# らんちゃん便り

## 今回のらんちゃん便りは…

らんちゃんは、保護されて6年になる救護の会のアイドル的タヌキです。今回はらんちゃんのちょっと意外な過去と比較的最近の様子を紹介します。

## らんちゃんが怖い!?

今のらんちゃんからしたら意外ですが、保護されてきた当初から3年程前までは、治療しようとするば「ガウガウ」と言って怒り、機嫌が悪ければケージの前を通っただけでも「ウー」となっていました。

今のらんちゃんが「噛む」なんてことはもちろん考えられません。でも、いきなり触るとびっくりしてしまうかもしれないので、一言、声をかけてあげて下さいね。



## 夢の中では…

らんちゃんは、リハビリをしても、車いすをつけても、立つことすらできませんでした。でも、たとえ現実の世界で走れなくても夢の中では元気よく走っているらしく、熟睡しているらんちゃんを見ていると時々足を一生懸命動かしている場面に遭遇するのです。私が最初にその姿を見た時は、走っている夢を見ているようには見えなくて、けいれんを起こしているのかと驚いてしまった程、元気よく動かします。

## 名前の由来

実は、らんちゃんのこの行動が、「らんちゃん」という名前の由来にもなっています。まるで走っているようなので、英語の「走る」の意味の「run」から、「らんちゃん」とボランティアさんが呼んでいたのが、いつのまにか定着したのです。

## 最近

以前は声をかけると起きたのに、最近は反応してくれなくなってしまいました。ずっと寝ているだけのようならんちゃんですが、ただ寝ているだけではありませんよ！

らんちゃんは、救護された動物代表のうちの一匹として地元の小・中学校に出向き、人々とのふれあいを通して自然環境の大切さや鳥獣保護思想の普及啓発活動を行

っています。らんちゃん、エライ!!

## 最後に

これで「らんちゃん便り」は終わりです。らんちゃんを知らない方にはその魅力が、知っている方にはさらなる魅力が伝わったなら幸いです。らんちゃんについて教えて下さったセンターの職員さん、救護の会の方々、そして今まで「らんちゃん便り」を読んで下さった皆さん、ありがとうございました！

# 山下の突撃レポート!!

今回は、平成 20 年度 9 月 20 日(土)に行われた野生動物救護ボランティア講習会の修了証授与式&ボランティア研修会の様子を突撃レポートしてきました!!

## 平成 20 年度 修了授与式

修了証授与式は、今年の 5 月 17、18 日に行われた、平成 20 年度野生動物救護ボランティア講習会を受講し、研修期間を無事終えたボランティア受講生を対象に行われました。授与式には、新人ボランティアのほかに、既に登録済みの先輩ボランティアも後輩を歓迎して多数出席してくれました。

修了証の授与では、新人ボランティアの名前が一人ずつ呼ばれ、自然環境保全センターの木佐貫課長からボランティア登録証が、(社)神奈川県獣医師会顧問の中山先生と野生動物救護の会理事長からは修了証がそれぞれ授与されました。皆さん緊張した様子で登録証と修了証を受け取っていました。

今年、新たに 47 名のボランティアさんが登録を済ませ活動を始めました。講習会・研修期間を通して学んだことを活かし、野生動物救護活動の場で活躍して下さることと思います。



修了証授与の様子

修了証授与式のあとは特別講演会が開催されました。東京農業大学野生生物研究室の安藤元一先生が、「神奈川のリスとムササビ、そしてモモンガ」と、

「野生復帰のタヌキ追跡調査」について講演して下さいました。

## 神奈川のリスとムササビ、そしてモモンガ

講演内容はモモンガ・ムササビの相違点や丹沢でのモモンガ・ムササビの生息状況などとても興味深いものでした。特に面白かったのは、リスから進化したモモンガ・ムササビが滑空できるようになった過程についてでした。世界のリス科は全体で 50 属 260 種ほどいるそうですが、その中で樹上性のリス科が 25 属 128 種、皮膚のたるみを使って滑空できるようになった滑空性のリス科は 14 属 37 種いるそうです。

また滑空性のリス科には、腕の付け根の部分に「針状軟骨」という骨があります。これは飛膜を広げた時の飛膜面積を増すためにあるようです。ただ腕を横に出して皮膚のたるみを広げているのではなく、少しでも大きく広げるために細かい工夫があることがわかりました。

## タヌキ追跡調査

追跡調査の結果、放野されたタヌキは一定の距離を移動してから定着していました。しかし、すべての個体が定着できたわけではなく、中には交通事故や感染症によって死亡してしまった個体や、疥癬症にかかって衰弱したところを再び保護された個体もありました。また、2 ヶ月以上追跡できたタヌキの調査の結果、放野されたタヌキはすぐに放野された場所に定着しないこともわかりました。

現在、日本では傷病鳥獣の放野後の追跡調査の前例はほとんどありませんが、安藤先生の講演を聞き、傷ついた野生動物を救護することだけが野生動物救護ではなく、放野後の動物たちがどのように生活しているかを調べることは重要であると感じました。

# ランナー通りの住人たち ～ササゴイ編～

笹五位 *Butorides striatus* Straited heron コウノトリ目サギ科

## ササゴイってどんな鳥？

体長 50cm くらいの青灰色のサギです。翼の羽には白い縁どりがあり、これが笹の葉に見えることからササゴイと呼ばれています。姿かたちはコサギよりゴイサギに近いですが、ササゴイはゴイサギよりも小柄で虹彩（人間でいう黒目）が黄色く、冠羽は黒です。



<↑ササゴイの風切り羽>

## ササゴイとゴイサギの違い

	ササゴイ	ゴイサギ
科	サギ科	サギ科
属	ササゴイ属	ゴイサギ属
体長	50～55cm	60cm 前後
鳴き声	キュー	クワツ
虹彩	黄	赤
翼	笹模様	灰色
冠羽	黒～灰色	白
足	黄	ピンク
留鳥 or 渡り鳥	夏鳥	留鳥
活動時間	夕方～夜	昼～夜

## ササゴイの暮らし

もともと熱帯～亜熱帯の鳥で、神奈川を含め日本で繁殖したササゴイの多くは冬に南へ渡ってしまいます。毎日川辺で魚やカエル、水棲昆虫などを捕って食べます。基本は夜型ですが、昼間でも見ることができます。繁殖の季節は4～7月で、水辺近くのイチョウやケヤキなどの大木に木の枝で作った巣に卵を2～6個産みます。卵は約21～25日でふ化し、幼鳥は茶色と白の縞模様で、お母さんとは全く違う印象を受けます。

## 少なくなっています

ササゴイは神奈川県レッドデータブックで絶滅危惧Ⅱ類（絶滅の危険が増大している種）に指定されています。河川には姿を現しても、営巣地が少なくなっているためです。以前は相模川と本厚木駅の間にある神社に巣を作っていました。目の前にマンションが建ってしまい、周辺の2つの公園へと移動したものの、そこからも姿を消したという事例もあります。十数単位で巣をかまえるつがいの集団も今は1～数つがいに減少し、また、RUNNERvol2で紹介したカワウのようにフンの被害で嫌われることもあるようです。

## ササゴイのスゴイところ

### ①伸びます

ササゴイはよく伸びます。なにが？首と脚です。いつもは両方とも縮めているのでそんなに伸びるのか？と疑いたくもなりますが、センターにどうぞ来て見てください。枝の下

に餌を置くと、足で枝をつかんだまま思いつきり体を伸ばして餌に食いつきます。首が伸びるのはササゴイだけでなくサギ類の特徴なので、捕まえなくてはいけない時には顔（特に目）を狙われない様に注意しましょう。

この伸びを見たいときは餌を置いたら静かにドア越しに少し待ってみてください。でも残念ながら今までカメラを向けたときに食べてくれたことは一度もありません…。

## ②釣り名人

ササゴイは釣りをします。と言ってもみんなではないのですが…。釣りの方法としては、まず近くに落ちている適当な葉や虫、パンくずなどを食べるのではなくくちばしで水面に飛ばします。そうするとそこに食いついてくる魚がいます！その魚をキャッチするのです!! どうですかこの釣り名人!?これは撒き餌漁と呼ばれ、熊本県のとある公園でよく見られたそうです。でも神奈川にいる野生のササゴイでも釣りするやつらがいるらしいので、運がいい人はこの光景を見られるかもしれないですね♪

## ササゴン

受付 No : 040332

受付日 : 2004 年 6 月 23 日



厚木市相町で巣から落ちて幼鳥の時期に保護されました。

私は個人的にササゴンと呼んで可愛がっていますが、このササゴン、意外(?)といじめっ子らしく、他の鳥と同居させると攻撃してしまうらしいので、B小屋で孤独な生活を送っています。そのくせに以前一度だけ相模川へ放野しに行ったのに、ずっと飛ばずに近くをウロウロしていたため仕方なく撤収という強いのか弱いのかわからない子です。でもこんなササゴンでも可愛いところもあるのです。一つめは人の顔を盗み見るときの首のかしげ方。上目遣いがうまいんです。もう一つは夕方になるとたま〜に聞こえるキューという鳴き声。アオサギよりも細い声なのでちょっと耳を澄まして聴いてみてくださいね☆

## 子供ササゴン

受付 No : 080384

受付日 : 2008 年 6 月 26 日

厚木市本厚木駅南口の植込みの中にいたところを保護された巣内ビナです。

受付している時点で具合が悪そうにじっとして、保温箱の中で頭をゆらゆらさせている状態でした。衝突でしょうか?その後魚を何尾か強制給餌してみましたが吐いてしまい、翌日には他界しました…。ここでボランティアさんによる解剖で発見です!外からは見えないのですが、なんと胸部の羽毛をかき分けるとそこには黄味がかかったオレンジ色のふわふわした羽毛(通称ポヨ毛)がいっぱい生えているのです。040332でも同じものが確認されました。それは粉綿羽といい、尾脂腺が発達していないサギ類の羽の水はじきをよくするための粉を出す羽でした。ゴイサギはもっとポヨ毛が多いらしいです。

## 第14回野生動物医学会神戸大会

### ポスター発表しちゃいました！

今年9月3日～7日に 第14回 日本野生動物医学会神戸大会が開催されました！野生動物医学会大会は、野生動物の専門家や学生などが全国から集まり、講演や集会で語り合ったりする一年に一度の大会です。



イワツバメ

ある日、保全センターの獣医師さんがたまたま来ていた1人の学生ボランティアに言いました。

「いつもここで仕事をしている私達は毎年スズメのヒナが最初に来て次にツバメ、最後にオナガとかそういう順序は感覚的にわかっているけど、これって本当に自然界での繁殖時期と合っているかなあ？調べてついでに野生動物医学会に発表してみる気ない？」

それまで学生ボランティアには学会に出るなんてこと考えられませんでした。獣医師さんに何回か打診されるうちに本気で発表のことを考え始めました。そして他の学生ボランティアがセンターに来た時に一緒にやってくれるか頼み、さらに他にも何人か打診して発表することが決まりました。

ポスターは夏休み前に結成したメンバーで過去10年間に保護された一般的な鳥（スズメ、ツバメ、ムクドリ、ヒヨドリなど）のヒナについて獣医師さんにもらった救護データ

を基に各種の保護時期をグラフ化し、さらに最近の3年間に関してはヒナを巣内ヒナと巣立ちヒナに分けました。

しかし、メンバー全員がそろって集まる時間がなくて連絡もなかなかスムーズに取れなかったり、データがきちんと記されていない箇所があり1枚1枚保護記録票をめくったりと大変なこともありました。それでもメンバー同士助け合って、忙しい人に代わって自分の担当以外も調べるなど、なんとか乗り越え完成させることができました。

調べた結果、保護されるヒナの順序としてはスズメ、ハシボソガラス、シジュウカラ、ムクドリ、ハシブトガラス、ツバメ、イワツバメ、カルガモ、ヒヨドリ、そしてオナガとなりました。また、メジロはヒナの時期はピークがなく一定の割合で保護され、キジバトとドバトは通年保護されるけれどやはり温暖な気候の時期の方が多いということが分かりました。



カルガモ

ポスター発表は9月6日でした。残念ながらメンバー全員が神戸に行くことはできませんでしたが、そんな人たちの分まで他のメンバーが代わりに説明を頑張ってくれ、大会の雰囲気を楽しんでくれました。

次からは神戸大会に行ったメンバーの感想です。



# HELLO!! VOLUNTEER☆

このコーナーでは、ボランティアさんの紹介をしていきます☆

こんにちは！今回はスーパー小学生の紹介です。夏子さんは野生動物救護ボランティアの活動体験を学校の自由研究や作文などで活かし、高い評価を得ています。

「平成 19 年度 和田傳文学基金事業 第 2 2 回和田傳文学賞受賞式の小学校 4 ～ 6 年作文の部」にて『特選』に選ばれた作品を紹介します。

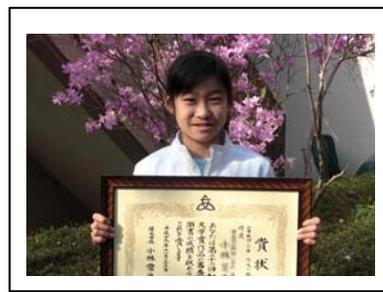
## ☆夏子さん☆

所属：小学校 6 年生

ボランティア歴：2 年目

好きな動物：チョウゲンボウ

今後やりたい事：Mプロジェクトのお手伝い



## 「いつかは野生に・・・」

五月二十三日、うちの犬が庭で目の前に飛び降りてきたキジバトの巣立ちビナを捕まえ、かみてしまいました。キジバトは、おなかがえぐれ出血していました。急いであすなる動物病院に連れて行き、治りようしてもらいました。その時に先生が、

「近くに野生動物を保護しているセンターがあるからいろいろ聞くといいよ。」

と教えてくれました。

自分が住んでいる厚木市に県立の自然環境保全センターがあることを知り、行ってみることにしました。そこは、私の想像と違って、すごく古そうな建物でした。キジバトをみてくれた獣医師の加藤先生は、とても話しやすい女の先生で、私とお母さんが、

「この施設を見せていただけますか。」

と言うとすぐに案内してくれました。

外には、きずついたまま野生にもどれないトビやセグロカモメ、きずが治ってもう少しで野生に帰れるタヌキやアオバズク、ツバメなどたくさんの動物たちがいました。中には、治りよう室やタヌキ部屋、鳥部屋があって、ちょうど小鳥たちにさしエサをしているところでした。口をいっぱい開けてエサをほしがるスズメやツバメの子、初めてみるイワツバメの兄弟は、私のくつに乗ってきたりしてとてもかわいかったです。さしエサをしている人達は、みんなボランティアで来ていると聞いて、私もやりたくなりました。先生にお願いしてみると、

「夏休みにおいで。」と言ってくれました。

とうとう夏休み、ボランティア体験初日です。最初にタヌキ部屋のそうじをたのまれました。とてもくさかったけど、部屋にいる動物が気持ちよくいられるようにきれいにしてあげました。次にしたのは、動物たちのエサ皿洗いです。流しが全部うまってしまうほどの洗い物は、一生けん命洗っても全然減りません。それどころか次から次へとふえていきます。センターで保護される動物の多さに、おどろきました。やっと終わると鳥たちのさしエサです。私はスズメを任せられたのですが、全然口を開けてくれません。他のボランティアさんに教えてもらって、やっと一羽にエサを与えることができました。

お昼ごはんを食べ終わるとすぐ二回目のさしエサです。今度は、全部のスズメにあげることができました。

加藤先生といっしょに『受け付け』にも行きました。ダンボール箱には、巣から落ちてしまったツバメのヒナが入っていました。幸いケガはありませんでした。その日だけで、三匹の野生動物がやってきました。五時には、私はもう足がいたくて、くたくたでした。

ある日、お母さんのおなかから落ちてしまったアブラコウモリの赤ちゃんが、二匹送られてきました。たった二センチくらいの大きさで、一匹はなかなかミルクを飲んでくれず、死んでしまいました。もう一匹も、数日たって私がミルクをあげてカゴにもどそうとしたら、私の手からコロコロと転がってカゴに落ちてしまったのです。

「えっ、何が起きたの。」

私は、心ぞうが止まりそうでした。声をかけたけれど、ピクリとも動かない……。頭の中が真っ白になりました。急いで、赤ちゃんを加藤先生の所に連れていきました。でも、もう死んでいました。私は、悲しくて胸がいたくなりました。私のせいで死んでしまったと、何回も心の中で叫びました。落ち込んでいる私を見て先生は、

「死んでしまった動物は生き返ることはない。いつまでも悲しがっていないで、今生きている子たちを一生けん命世話をし、野生にもどしてあげよう。」

と言ってなぐさめてくれました。

その日は、元気になったカルガモを近くの池に帰しに行きました。中には、羽を骨折をしていた子も、飛べなくても元気に走って行って泳ぎだしました。私は、自分でエサを取っている姿にとっても感動しました。一人で生きていけるか心配ですが、がんばってくれると信じています。

私は、このセンターのボランティアをして本当によかったと思います。たくさんの出会いが、ありました。二度と野生に帰れない動物たちも必死で生きていることを知り、勇気をもらうことができました。動物たちの力になれるこのボランティアを、私はこれからも続けていきたいと思っています。

あの日のキジバトは、夏休みの終わりには元気になって空へ飛び立って行きました。今、私は家でツバメの子を引き取って世話をしています。

「いつかは野生に……。」を心に願い、元気に飛び立つ日を待っています。

# インフォメーション

## イベント

### あつぎ環境フェア

- あつぎ環境フェアに出展します。
- ▽日時 11月2日(日)
- ▽場所 厚木中央公園

### 秦野市民まつり

- 秦野市民まつりに協力展示します。
- ▽日時 11月3日(祝)
- ▽場所 秦野市中央公園

### 探鳥会

- 冬鳥を見に行きましょう!
- ▽日時 11月下旬
- ▽場所 宮ヶ瀬湖周辺予定

### 野生動物救護連絡会による行事

- 釣り針・テグスによる野鳥の被害調査の一環として、海岸清掃(ゴミ拾い) & 探鳥会に参加します。
- ▽日時 11月9日(日)
- ▽場所 三浦半島毘沙門海岸
- ▽主催 日本野鳥の会神奈川支部

### ジャパンバードフェスティバル 2008

- 「人と鳥との共存をめざして」をテーマに NPO・行政・企業が一同に会して開催される一大イベントに参加します。
- ▽日時 11月8~9日(土、日)
- ▽場所 我孫子市手賀沼公園
- ▽主催 JBF 主催委員会

### 保全センター大掃除&トン汁大会

- 傷病舎やボランティアルームなどの大掃除を行います。大掃除の後はトン汁大会を予定しています。
- ▽日時 12月中旬
- ▽場所 自然環境保全センター

## その他

### パネル展示

- 「ゴミに悩まされる傷病鳥獣(仮)」という題でパネル展示を行う予定です。
- ▽日時 12月
- ▽場所 よこはま動物園ズーラシア(予定)
- ※詳細は決まり次第お伝えします。

### スキルアップ勉強会

- 前回大好評だったスキルアップ勉強会がまた始まります。
- ▽日時 1月~
- ▽場所 自然環境保全センター
- ※詳細は決まり次第お伝えします。

### 講演会

- 東京農業大 安藤先生と神奈川県自然環境保全センター職員 獣医師 加藤千晴先生のお二人を招いての講演会があります。
- ▽日時 2月15日
- ▽場所 生命の星地球博物館

## ☆☆会員へのお誘い☆☆

当会は、ボランティアスタッフの協力と設営趣旨にご賛同いただきました皆様方の寄付によって運営されております。私たちの活動を支えてくださる賛助会員も同時に募集しています。

### ★ボランティア会員(年会費2,000円)

一般会員:どなたでもご参加いただけます

救護会員:ボランティア講習会を受講し、野生動物救護ボランティアとして登録された方

### ★学生会員:学生の方(年会費1,000円) <区分は上記と同じ>

### ★賛助会員:当会の活動にご賛同いただき寄付をしていただいた方

年会費:法人一口5,000円 個人一口3,000円 一口以上

振込先 ゆうちょ銀行振り替え口座 : 00270-0-47040

名義 : 特定非営利活動法人 野生動物救護の会

2008年11月1日 発行: 特定非営利活動法人 野生動物救護の会

〒259-1306 神奈川県秦野市戸川1086番地の4 電話: 0463-75-1830 ホームページ: <http://kanagawa-choju.sakura.ne.jp/>

編集者 表紙絵: 小林夏子 今日のRUNNER: 小松美絵 らんちゃん便り: 太向咲恵 山下の突撃レポート: 山下宏幸

HELLO!! VOLUNTEER ☆: 本田由美 ランナー通りの住人たち、野生動物医学会、ハシボソミズナギドリ: 高橋恵 写真提供: 渡辺優子